

2013年 ジャパンジュニアテニスツアー 全国大会 トーマスカップ エピソード

2012年は私にとって、本当に忘れられない年でした。

私の2012年の目標は、「JOP ランキング12歳以下の部で、TOP3になる。」ということでした。

4月半ばまでは調子も良く、いい結果も出ていました。いくつかの大会で優勝し、8月には私にとって初の国際試合になる、韓国遠征試合への出場権も手に入れました。テニスの調子が上がってきたのと同時期に、当時住んでいた建物の修善工事が行われていて、完成したら（どんなにキレイになるのだろう。）と心待ちにしていました。私は気分も明るく、次の試合で勝ったら、JOP ランキングで初めて2位になるチャンスだとわくわくしていました。

しかし、ここで悲しい出来事が起き、全ての光は一瞬のうちに消えてしまいました。

6月末、私が毎日使っていた工事中の階段の角がいきなり欠けて、私はバランスを崩して、コンクリートの壁面に強く背中を打ってしまいました。激痛が骨の芯から体中に回りました。次の朝も痛みはひどかったけれど、我慢してテニスの練習に出かけました。いつもお世話になっている地元の方たちに混じってボールを打っていると、わずかな動作でも背中に激痛を感じました。すぐに練習を止めて近くの接骨院に行きました。

接骨院の先生は私の説明を聞いてから怪我を見て、レントゲンを撮ることを勧めました。しかしその日は土曜日で、2日待つてようやく整形外科でレントゲンを撮りました。病院の先生は私の背中の中の写真をコンピューターに映し出し、角度を変えたり3Dにして観察してから残念そうに言いました。「君は、背骨を骨折してしまいました。」私はショックのあまり、言葉を失い、身動きができませんでした。病院の先生は続けました。「たとえ骨折が治ったとしても、そのままテニスが続けたら、深刻な神経のトラブルになるかもしれないよ。競技テニスを続けるかどうか、考えなくてはいけないよ。」いきなり私は、大きな黒い雲におわれたかのような恐怖心に襲われました。荷物を持つてはいけない・5分以上は歩いてはいけない・学校に行つてはいけない。車に乗つても振動が背中に伝わつて、あまりの痛み我慢できませんでした。椅子に座り続けることもできなかったのもので、勉強もできなくなりました。とにかく苦しかったです。

しばらくして背中の中の痛みが和らいでくると、今度は背骨を折つた時同時にコンクリートにぶつけていた首と肩の痛みが強く感じられるようになってきました。

7月があつという間に終わり、8月がやってきました。

テニスを始めてから、これほど長くラケットを握らなかつたのは初めてでした。どうにも我慢できず、少しずつ練習を始めて3日目。バックハンドを1度だけ打つた瞬間、激しい痛みが首と肩に駆け回りました。やがて、腕の力が完全に抜けてしまい動かせなくなつてしまいました。接骨院の先生に言われて、首と肩に鍼を打ちながらテニスの練習や試合に出るようになりました。テニスの激しい動きを鍼をつけながらするのはとても怖かつたけど、それ以上にテニスがしたかつたのです。

骨折をする前の私は、フォアハンド・バックハンド共に‘両手打ち’でした。でもこの怪我のせいで腰をひねることができなくなり、片手打ちに変えなくてはいけなくなりました。さらに左腕はしびれることがあつたので、右腕だけの打ち方を学ばなければならませんでした。左腕をかばつて使わずにいても、痛みにはしつこくつきま

とわれました。でもテニスを止めたくなかったので、ただ一生懸命に練習を重ねました。サーブのトスを上げるにも肩が上がりませんでした。ようやく上がるようになったのは、怪我の前に申し込んでいた試合のわずか1週間前でした。

出場権を手に入れてから楽しみにしていた韓国遠征。私は結局プレーはできませんでした。でもそこでたくさんの友達ができました。それに中国代表国際チームのコーチに「君には才能がある」とスカウトされたことが一番うれしく心に残る思い出になりました。日本に帰国してからは、気持ちをポジティブに保つようにしながら、そしていままで以上に慎重に練習に励みました。

怪我以前にはなかった首と左肩の痛みは、毎日病院に通って治療を受け、いろいろ試してみましたが、一度神経にダメージを受けるとなかなか良くなるはなってくれませんでした。医者でさえ、君が完全に良くなり復活するのはいつになるかわからない、といいました。それでもテニスの練習はできる範囲で続けていたので、やがて練習の成果が現れてきて片手打ちも上達してきました。けれどもいきなり首と肩が痛み出して数分後には左腕全体が麻痺することがしばしばありました。

怪我の具合を見ながら試合に徐々に出るようになると、相手に弱みを握られないよう気をつかってプレーしていました。大磯フェニックスの大会で決勝までいったことがありましたが、結局痛みが出てきて棄権してしまいました。そんなふうに、9月は3つの大会で棄権しました。

調子が戻ってきたかなと自分で初めて感じたのは、9月末にあった伊豆高原ロビングの大会でした。10月の杉田フェニックスの大会では久しぶりに優勝することができました。調子が上がってき、この年の目標だった‘ランキング TOP 3’の可能性が出てきたのです。

話は変わりますが、私のコーチでもある父は、大のアメフトファンです。この年、フットボール界では、エイドリアン・ピーターソンとペイトン・マニーというスーパープレーヤーが、私のような神経の怪我をして、外科手術を受け奇跡的にカムバックを果たした、というビックニュースがありました。父は私を勇気づけるために、このようなニュースを見つけては、私に教えてくれました。そのおかげもあってか、私はあきらめずにただ練習をし、試合に出続け、他の大会でも何度が優勝できるようになりました。そうして気づけば、2012年の年間ランキング12才以下の部で1位を獲得することができたのです。あの時味わった達成感は、最高でした。

2012年体験したことは、今までで一番つらいことでした。でもその時できることをやり続けたことで自分の目標を達成できた体験は、一番の喜びでした。そして私は次の年につながる‘希望’も持ち始めることができました。そして、2013年良いスタートを切れるぞと思ったとき、神経の痛みが再発しました。

今も痛みを感じたり、左腕が麻痺してしまうなど私の心配はつきません。このままではテニスに全力で打ち込むことは難しいでしょう。日本の病院で治らないなら、海外の病院に行って手術を受けなければいけないかもしれません。私のプロになるという夢は難しいといわれ、今回は最後の TOMAS CUP になるかもしれないと思うと、本当に悲しい気持ちになります。

私は、自分の愛するスポーツで目標を立て、それを達成するというすばらしい体験をさせてくださった、スポーツサンライズみなさんやスポンサーみなさんへ心から感謝しています。また私だけでなく、妹の成子が10才で JOP 全年齢ランキング1位を取れたことも JOP の大会に関わったみなさんのおかげです。神のご加護に感謝します。家族のサポートに感謝します。本当にありがとうございました。